

令和7年度学校運営方針

【本校が大切にすること】

- 1 子ども主体の学校生活づくり
 - ・大人が保護的・管理的になるのではなく、自分から目当てと見通しをもって意欲的に取り組む子ども。
- 2 教師と子どもがともに活動し「感じ合い、わかり合い、支え合う」学校
 - ・子どもの思いや願いを共有し、ともに活動する中で満足感・成就感を分かち合える、熱意と情熱をもって接する教師。

今日に満足し、明日を楽しみに待つ学校生活

【学校教育目標】

児童生徒一人ひとりが、仲間とともに活動する中で、個性を存分に発揮し、目当てと見通しをもちながら、自立的・主体的に生活できるようになる。

【今年度の重点目標】

1. 教育活動の充実～児童・生徒一人ひとりが自ら意欲的に取り組むために～
 - 1) 各教科等をあわせた指導の充実
 - ・資質・能力の育成をねらい、主体的・対話的で深い学びの実現を図り、探求型・協働的学びの授業づくりを行う。
 - ・子ども主体で、教師と共に活動し、達成する授業づくりを行う。
 - 2) 個に応じた教育のさらなる工夫
 - ・個別の教育支援計画、個別の指導計画の継続的な見直しを行う。
 - 3) キャリア教育・進路指導の充実
 - ・卒業後の豊かな生活を目指したキャリア教育を推進する。また、ワークキャリア以外のライフキャリア等及び QOL を考慮しキャリア教育について検討する。
 - ・実習先や進路先の開拓や産業現場等における実習を行う。
 - ・保護者に対する進路に関する情報の提供と研修会を充実させる。
 - 4) ICT 機器を活用した取り組み
 - ・児童生徒が、授業及び学校生活において ICT 機器を身近なツールとして感じられるよう活用を工夫する。

- ・「誰一人取り残さない」一人一台端末を活用した教育を推進する。

2. 災害や危機への対応・環境の整備－安全・安心な学校づくりのために

- ・地震災害等についての対応の充実を図り、保護者と共有する。
- ・危機管理マニュアルの継続的な見直しを行い、事故発生時の迅速な対応や再発防止に努める。
- ・校内外の有効な情報を全職員で共有する。
- ・災害時の一人一リュックを継続する。

3. 教育学部と連携した次世代を担う教員の育成

- ・教育学部と連携して、教育実習や介護等体験実習を着実に進め、有為な教員を育成する。

4. 研究活動および研修の推進

- ・校内教員間での連携研究に加えて、校外機関との連携研究も推進する。
- ・研究成果の発信は、本校の公開研究会や研修会に加えて、学術雑誌や学会等で積極的に行う。
- ・外部資金への応募及びその獲得も意識する。
- ・授業研等を通して、他学部の児童生徒や学習活動の理解と授業力の向上を目指す。

5. 大学・教育学部との連携

- ・教育学部と連携した研究を推進する。その一環として「千葉大学教育学部－附属学校園間連携研究」に積極的に応募する。
- ・千葉大学のダイバーシティに貢献する。

6. 附属学校、地域との連携、貢献、交流の促進、社会に開かれた教育課程

- ・地域資源の学習への活用、地域への貢献や連携を推進する。
- ・附属学校園との交流及び共同学習の推進及び連携を行う。
- ・地域の特別支援学級等の教師の資質向上を目的とした研修を行う。

7. 国際交流の取り組みを通したグローバル化の意識の育成

- ・海外の特別支援学校等（韓国、カンボジア）との国際交流を推進する。

8. 保護者，PTA との連携

- ・保護者から信頼される連携・支援のために、振り返りや研修等を通し、教職員の資質の向上及びチームとしての支援力を向上させる。

9. 働き方改革

- ・子どもや教師にとっての学び甲斐と働き甲斐のある学校づくり及び持続可能な学校運営を念頭に、働き方改革を進める。